

～ 人権・同和教育だより ～

「空に風 人に愛」

島根県立浜田高等学校

定時制・通信制課程

第11号 2021. 3. 23 (火)



< 本当に大事なものは何なのか >

東日本大震災から10年を迎えた3月11日、福島県の意見広告が新聞に載っていました。

あの日から10年になります。

地震、津波、原発事故は、美しく穏やかだった

私たちのふるさとを一変させました。

大切な人との別れや、見えない放射線との戦いがありました。

避難して仮設校舎に通学した子が成長し、成人を迎えています。

他方で、いまだ行方不明のまま、

心も体もふるさとに帰れない子がいます。

こうした年月に思いをはせるとき、

「もう10年」とも、「まだ10年」とも感じられます。

私たちは原発事故による地域社会の分断、風評被害、

差別・偏見と10年にわたって戦ってきました。

そして2021年、世界は目に見えない

ウイルスによる禍の中にあります。

自由やぬくもりを奪われ、不安と息苦しさを感じています。

10年前と同様に、当たり前が当たり前では無くなり、

本当に大事なものは何なのか、改めて考えさせられています。

「あの日私たちは、波に飲み込まれていく人々の手を

掴み取って救うことができなかった。だから今度は、

社会から分断されてゆく人々の手を握り締めて、離さないで。

みんながもっと自分を、他人を愛せる世界を願っています。

そして私自身が、そうでありたい。」

—————会津学鳳高校 平子七海さん

私たちは暗闇の中から一歩ずつ、復興の歩みを進めました。

原発事故による避難指示区域は5分の1に縮小され、

道路や鉄道が開通し、学校や病院が再開する中で、

非難していた人たちも徐々に戻ってきました。

ロボットや再生可能エネルギーの研究拠点ができ、

日本酒や果物をはじめとする県産品が高く評価され、

誇りを取り戻してきました。

(裏へ続く)

一方で、避難者はいまだ3万人を超えており、
当時の傷が癒やされず苦しむ人がいます。
復興が進むにつれ地域差が生まれ、
さらなる孤独にさいなまれている人もいます。
時間の経過がもたらす風化や関心の低下があります。
そして廃炉に向けた長い道のりは始まったばかりです。
10年を経て、光と影のコントラストは
強まってきたのが現実です。それでも、
復興の軌跡の中で強くなれたこと、成長できたこと、
結ばれた絆があることも確かです。震災がなければ
出会わなかった方々とのご縁と協働がありました。
県民の皆さん、福島に心を寄せてくださる皆さんの
たゆまぬご尽力ご支援に、心から感謝しています。

私たちは未来に向けて、次の10年に踏み出します。
ここに、うつくしいふるさとを取り戻し、
活力と笑顔あふれるふくしまを築いていくことを、
改めて誓います。
これから生まれてくる子どもたちにとっても
誇りに思える福島を。

2021年3月11日 福島県

今年の3月11日を前に、「10年の節目」という言葉をよく目にしました。その言葉自体にはなんの意味もありますが、私自身「この10年、私は何をしてきたのか？自分にできることを考え動こうとしたのか？」と問い直すきっかけになりました。そして、東日本大震災について自分の中ですっかり薄れてしまっていることに気づき、我ながらショックを受け、忘れてはいけなくと強く意識しました。当時の映像を見ながら、地震や津波や原発事故の被害や恐怖を改めて認識する一方で、人が人を想うことのあたたかさや尊さ、生きていくことに必要な強さや人とのつながりを感じました。私たち生きている人は、何がどうあっても生きていかなければならない、生きていくためには思い合い支え合い、強くあらねばならない、と痛感しました。自分ができることを問い続け、まっとうに生きていきたいと思えます。

(生徒部 人権・同和教育担当：岡崎)

< 3.11を忘れない～あの日から10年が経って～ >



数年前の全国追悼式でスピーチされた被災者の方が語っておられました。「いただきます」「ごちそうさま」
「何でもない普通のこと、本当に幸せで大事なことだと感じる。」
こういう思いは普段はなかなか気づかないことなのかもしれません。「大切なもの（人）は失って初めて本当の大切さに気づく」とも言いますが、大切なもの・大切な人を普段から大切に思うこと、その思いをきちんと伝え行動することが大事だと思います。そういう思いを綴った歌詞を紹介します。（CMソングでもあるので聞いたことがあると思います）「ありふれた日々」こそが「何でもない普通のこと」こそが、「とても幸せなこと」なのかもしれません。

雨上がりの空を見ていた 通り過ぎてゆく人の中で 哀しみは絶えないから 小さな幸せに 気づかないんだろう
時を越えて君を愛せるか ほんとうに君を守れるか 空を見て考えてた 君のために 今何ができるか
忘れないで どんな時も きっとそばにいるから そのために僕は この場所で
同じ風に吹かれて 同じ時を生きてるんだ

「たしかなこと」（詞：小田和正）

私たちのできることを問い続け、行動していくことが、私たちにとっての大事な使命だと思います。何年経っても決して忘れないでいたいと思えます。

(生徒部 人権・同和教育推進委員：春木)